
パネルディスカッション

第1回 生活を通して見る日仏の教育事情と展望

主催	日仏経済交流会（パリクラブ）
共催	日仏協会
助成	笹川日仏財団
進行	浦田 良一／パリクラブ常任理事
司会	小林 善彦／学習院大学教授
パネリスト	小林 善彦／学習院大学教授
	桂 雄一／電通ワンダーマン相談役
	池上 久／三菱商事参与 パリクラブ常任理事
	ティエリ・マレ／学習院大学教授
	ナディア・オダジマ／リセフランコジャポネ家族の会
日時	1998年2月26日（木） 18:30～20:30
会場	日仏会館ホール

何故、教育問題を取りあげたか

浦田 初めのデバで、なぜ「教育」という問題を取り上げたのかを簡単にご説明しておきます。日仏の理解を深めるために、一度、個人と家族の問題、あるいは進学、就職の問題について考え方の比較・違いを検討してみると意味があるのではないだろうか。またそこから派生的に出てくる問題に目を向けてみると、お互いの文化の理解にもっと役立つのではないだろうか。そういうことが経済活動をする上でも理解が深まった分だけ、やりやすくなるのではないかということで、このテーマを年頭の行事に据えることにしました。

従って、今日は教育問題を真正面から議論するというのではなく、むしろ「教育」を取り巻いている色々な問題について考察しようというのが主旨です。その辺をご理解頂きたい。

今日は子女教育の異国実地体験者四名をパネリストとして招いています。

キーワードとなるような個々のテーマについては小林先生のリードで、一つずつ議論していきたい。

今日の四人のパネリストの中、二人のフランス人は今お子さんを東京で教育されている方達で、二人の日本人はかつてパリで子供たちを現地で教育されてきた方たちです。もちろんこの四人の方々だけで日仏の全ての体験を語れるとは思っていませんが、このの方々を中心に小林先生から話を頂き、折に触れて、場内で異なった体験をされたの方々にも参加して頂きたいと考えています。

小林 ティエリ・マレ先生、学習院大学フランス文学の教授です。12年前に日本にいられてお子さまは日本の学校に行っております。私はこの10年同僚としてお付き合いしておりますが、エコール・ノルマル・スベリユールの大変な秀才でギリシャ語・ラテン語・フランス語も質問をするとすぐ何でも答えて頂けるので色々お世話になっております。

そのお隣ナディア・オダジマさんは翻訳・通訳のお仕事。リセ東京の家族の会・会長。桂 雄一さん、電通ワンダーマンにお勤めで、フランスに長く滞在し、向こうでの教育の経験をお持ちです。

池上久雄さん、三菱商事の参与で同時に日本在外企業協会の海外子女教育部会長というお仕事をして居られるので外国での、特に本日フランスと日本の、教育を通じたいろいろなものの考え方の違いをお話して頂きたい。

最後に私は日仏会館の常務理事をしており学習院大学の教授ということになっていますが、3月末に定年で、すでに最終講義も終えており、4月からは日仏会館の常務理事です。

それでは四人の方にまず、できるだけ簡単に東京・パリでの子供の教育体験を、あるいはどんな状態であるかということをごく一言ずつ。その次にもう少し質問をします。

パリとニューヨークでの教育

池上 私は男の子二人です。パリにいたのは1974年から80年までの6年間です。その時長男が2歳から8歳、幼稚園から小学校の初めまでフランスの学校、それから日本人学校、そして帰って日本の学校。次男が8ヶ月から6歳までで、4年間フランスの幼稚園から小学校。その後転勤でニューヨークに5年間、上の子はJunior High Schoolの2年生から高校卒業まで、アメリカの現地のHigh Schoolを、下の子はアメリカ・ニューヨークの日本人学校を卒業して高校は日本です。今二人とも社会人です。

3人の娘がバカロレア取得

桂 子供は日本で言えば高校1年、中学2年、小学6年というところで、1979年に行きまして85年まで6年間ちょっと居りました。いい時期ということもあったのですが、現地の方でお助けもありまして3人ともバカロレアを取りました。

在日25年の体験

オダジマ 私は25年前から東京に住んでいます。二人の子供は東京で生まれました。80年に生まれた息子は日本の幼稚園と小学校に行きました。Lycee Franco-japonaisにCN2から行き現在1-Sというクラスにいます。娘は85年生まれでやはり日本の幼稚園に行きました。それから3ヶ月Lycee Franco-Japonaisの幼稚園／小学校に入りました。これはCPと言いますが、現在ではLycee Franco-Japonaisの第5学級にいます。

3人の息子を日本の学校へ

マレ 私の方は三人男の子がいます。12歳・9歳・7歳です。三人は4ヶ月の時から日本の保育園や幼稚園に行き、普通の公立の小学校に行きました。現在、小学校1年・3年・5年生です。

海外赴任命令を断ることが出来ますか

小林

ありがとうございました。それではもう少し突っ込んだ質問を私の方からします。学校を選んだ理由は？日本の方は現地の学校に行くか日本人学校に行くか。フランスの方は日本の学校カリセか。それから、もしも国に残してきたお子さんがあればそれは何故か。それから、そういった選択があったから日本にあるいは外国に赴任したのか。それは、条件によっては母国にとどまったかどうか、あるいは留まることが出来たか、企業の命令がどのくらいそういうものに及んでいるのか、行かなくてはいけないのか断れるのか。池上さんからお願いします。

海外赴任も選択できる時代に

池上

私の家族は四人ですが原則として家族と一緒に住もうと色々な機会に話し合い確認し合ってきたし、幸いにも行く先の状況がそれを受け入れてくれるような国だったというのが一緒にやってきた一番の理由だと思います。ただ、学校の選び方ということになると、パリの場合は、当時日本人学校自体も非常に小さく普通の建物の中にあるようなもので、とても幼稚園までは併設できない状況でしたので、二人とも近くのキリスト教系幼稚園に3?4年通いました。これはチョイスがなかった。その後日本人学校へ。逆にアメリカでは、初めからアメリカのハイスクールに入れるとすることを了解の上で連れて行きました。下の子は日本人学校の中学を卒業してこちらに帰って来ました。選択の余地という悩みというよりは、まあ、こんな道かなあということでした。大体私のような道をたどる方は多かろうと思います。子供だけ残すということもなかった。最後の質問、企業から言われた時断れるかどうか、これはかなり大きな問題です。これは一つのテーマとして別に話さなければいけないのですが、私どもの場合はある程度事前に話をして、家族の事情が許せば、断るとか違う道を選ぶということは可能なようなシステムにして居ります。最近では子供の学校だけではなくて、ことに家族の中の父母、自分たちが一緒に住んでいて身体が弱くなって来たということで断る人が出てきたり、単身赴任になったりということも増えてきました。この辺はまた後ほどお話しさせて頂けたらと思います。

桂

池上さんのお話を聞きながら、私の時も考えていました。まず3番目の方から、会社の方から突然「フランスへ行くか」と相談をされたと言うか打診ということはありました。突然だったので「どう答えるのが普通なんですか」と人事の方に聞いたら、「有り難くお受けする」と言うのが一番いい答えだ」と言うので女房にも相談せず「そのようにして下さい」と言ったことは覚えています。自信があった訳ではないのです。お見受けするとフランスの方がいっぱいいらっしゃいますが、日本の企業は“軍隊”で“敵”でひどいと思われている方が居られるかと思いますが、そうではなかったということです。相談を受けたのです。

外国生活は家族一緒に

それから学校の方ですけど、親と一緒に居るのが一番よい教育だということは疑っていませんでした。従って、人間教育の場というか学校は家庭が一番。学校というのはその次にある訳です。幸いにもパリには日本人学校がありまして中学2年と小学6年は義務教育ということですぐに入れて頂きました。高校1年の子供、年齢で言えば16歳ですが、全くフランス語がわからないまま義務教育も終わっておりました。パリにいらっしゃる方に相談して、ノートルダムデゾラゾーという私立のキリスト教系の女子高校に入れることが出来ました。仏語が分からないということで中学3年生、フランスで言うと3eに入れて頂いた。それについては一つ学校の方が、あるいは生徒たちが、仏語が全然分からない日本人が入ってきて勉強を邪魔されるのではないかと私の方は考えまして事前にすこしは勉強させました。家庭教師をつけたり

しましたが、僕の思い込みで一つございますのが、仏語も少し時間を頂ければ子供の事だから結構キャッチアップ出来るだろうと考えました。子供自身は大変だったと思いますが、それについては私の一つの逸話があるのでご説明させて頂きたい。アメリカ人と飛行機で一緒になった時、そのアメリカ人がとても話好きで私に色々話し掛けてきて私も彼と自分の家の話しをした時に、とてもいいコミュニケーションが出来たと思ったのです。それで降り際に「私の英語はつたないから私の思いは伝わらなかったかも知れないが、あなたとのお話が来た」と言ったら、彼の方が私の顔をのぞき込んで、例のアメリカ人のあの非常にサンパティックな顔つきで「ものすごくいいコミュニケーションが出来た。それは何故かというと同じジェネレーションだからだ。」と本当にその男がその後付け足したんですが「ジェネレーションが違うと言うと、今私は子供と discommunication の状態だ」と言ったのを思い出します。そんな些細なことを引っぱり出すのもどうかと思いますが、子供はやはり同じ年頃の子供と一緒にいるというのは感性が同じであれば割合早く会話も出来る、書くことも読む事も出来るだろうと思ったので、そこに入れさせて頂いた。まあうまくいったのではないかと思います。従って私の所の教育上の問題としては、母国語で義務教育を終えたら余裕があれば仏語の学校でも英語の学校でもどちらでも、能力があれば、そして向学心があれば勉強したらよいだろうと思っていました。それでうまくいったように思います。

高輪小学校からリセに

オダジマ

私の子供の場合、息子が一人 80 年に生まれて居ります。彼とは非常にコミュニケーションの問題があります。当時私はフルタイム仕事をして居りまして彼は乳児院に行き、つまり生後 40 日から保育園に預けられた訳です。そこでのコミュニケーションは日本語、夜は私とフランス語で話していました。2 歳まで彼は殆ど言葉を話しませんでした。そこで私は決意をし、その時から私は彼に日本語で話しかけるようになり、そして子供の方も私に日本語で話してくれるようになりました。小学校に入る時は、全く迷わず日本の、家に近い公立の高輪小学校に入れました。ですから彼は日本語しか話しませんでした。私たちが 2~3 年に 1 度フランスへ行く時フランス語を少し覚えるのですが、日本へ帰るとすぐに日本語で話し始めてフランス語を忘れると言う状態でした。ですから息子を小学校に入れましたが問題はあったようです。顔は私に似ていますので外国人に見えます。日本人と言うよりはヨーロッパ人に見えます。そのことで彼は苦しんでいたようです。よく英語で話しかけられるので、彼は「私は日本人だ」といつも答え、自分が日本人だということをとても意識していました。そしてフランス全てに対していわば憎しみを持って居たようです。

娘は初めからリセへ

それから今度は娘が小学校に入る時期になりました。彼女も保育園・幼稚園と日本で過ごしました。夫と共に話し合いました。夫は日本の教育制度に対して少し反対していたのです。そのころ息子は小学校 5 年生、級友達は塾に行き始め進学のことを考え始めていました。例えば私立中学へ行くかと言うことです。夫は娘の方は Lycee Franco-Japonais に入れてもいいんじゃないかと言いはじめました。私にとっても、少なくともこうすればフランス語を話す子が出来るのではないかと賛成しました。私の娘も最初は殆ど日本語ばかり話していて仏語を話さなかったのですがリセ F-J に行くようになりました。

「受験勉強よりはフランス語の勉強の方がいい」

息子さんの方はあまりフランスが好きではありませんでしたが、自分もリセ F-J に行きたいと言いはじめました。休暇がとても長いということに気が付いたからです。私は息子に「よい中学に入る試験を受けるか

フランス語をするかどっちかにしろ」と言いました。リセF-Jに入るには仏語を最低限知っていなくてはいけませんので。彼は塾に入って受験勉強をするよりは仏語をやると言いました。彼の反応には驚きました。そこで家庭教師について週2時間仏語を学びました。小学校6年生の時でした。それから4ヶ月フランスへ行かせました。2ヶ月間フランスの小学校に行き仏語を勉強し、次いで2ヶ月間私の兄の所で過ごして日本へ帰ってきました。これで1年遅れて第6学級に入ることになりました。第6学級に入る代わりに1年遅らせてCN2に入らせることにしたのです。クラスの先生が変わらないので彼とコミュニケーションが出来てより適応出来ると思ったのです。それから落第することもなく進学し休暇が沢山あるからリセF-Jの方がいいと言ってとても満足しています。今Sのクラスで第1学級にいます。

「僕みたいな子ばかりだ」

初めて彼がリセに行ったときの様子をお話したいと思います。私はかれを迎えに行きましたどんな風か一日目を過ごしたのか心配していました。「どうだった？」と聞くと「僕みたいな子がたくさんいる」と答えました。これは本当に私にとって色々なことを語ってくれる言葉でした。父親は本当に学校には行けません。PTAとして学校へ行くのはいつも私でした。でみんなに母親が外国人であるということが知られていたのです。そのことで彼は傷ついていたようです。そこで彼はリセF-Jに行つてこのように混血の子がたくさんいるのをみてとても安心したようです。娘の方は全く問題ありませんでした。彼女は小学校の時からリセF-Jに行き仏語も簡単に覚えました。息子の方は日本語が読めるし書けるのです。中学生でありながら(仏語でなく)日本語で三島の『金閣寺』を読みました。ところが娘の方はやはり日本語に問題があるのです。これが私の問題です。ですから息子を最初日本の小学校へ行かせたのはとても良かったと思います。日本語の基礎が出来ました。その後フランス語へ移行するのもとても簡単だったようです。もちろん問題はありました。関係代名詞節など日本語にはないものなどに問題があったようです。でも授業に付いていくことは出来ました。しかし娘の方は、13歳の子供の日本語のレベルに到達しておらず、それが私の悩みの種です。私の選択の理由を話す前に、私の子供達にしても外国人と間違えられて英語で話しかけられたりしてすごく嫌がっている事を申し上げたいと思います。自分達を日本人だと思っているのです。

日本で生まれて日本の学校へ

マレ

私は日本の小学校に子供達を行かせました。その理由は、本当にその問題を提起したとは言えないような気がするのです。私の子供達は三人とも日本で生まれました。ですから彼らを日本の小学校に入れるのは当然のように思えたのです。と言うのは日本になるべく長くいるつもりだからです。もちろん他の可能性があることは知っていました。Lycee F-J その他です。ただ私の子供達は日本の幼稚園でした。0歳から6歳まで日本の幼稚園に行きましたので日本語の問題は全くありませんでした。ですから私たちは公立の小学校へ行かせるのはとても当たり前のことに思えたのです。勿論フランスでは色々な恐ろしい噂が流れています。とりわけ日本の教育制度(受験制度)についてです。少し恐怖の気持ちがあったことは確かですが、ただの噂だったようです。いつかこの噂が本当になることがあるかも知れません。そう言う時には別の可能性、スベアとして使えるリセがあると考えています。また私の子供達の言語の世界は二つに分かれていました。家では仏語、外では日本語だけとなっています。これは当然のことです。彼らを日本の小学校に入れる事、それは又日本語を続けさせる唯一の手段だったと言うこともあります。本当にバイリンガルになるためには、それしか方法はありませんでした。仏語でも日本語でも両方話せて、続けていく為にはそれしか方法がなかったのです。また私はフランスにはクネッドという通信教育があることを知っ

ていました。その中に子供向けのものがあります。色々な理由で例えば外国へ言ったとか普通の学校に行けない子供達の為通信教育が行われています。また復習教師といわれ普通両親がするのですが、家で仏語の勉強が出来るシステムがあります。計算などもあります、それは言語が違って同じですから、仏語をとりわけそのクネッドという通信教育を三人の子供にやらせています。一番上の子でよくわかることですが、彼は12歳で仏語も日本語も話すことができ、読みも両方出来ます。二人目の子は仏語でも日本語でも全然本は読みませんから、いつか変わってくれることを望みます。三人目はどちらかで面白いものを読めるようになることを望みますがまだ小さいのです。

反抗期の息子と強気の娘のフランス体験

小林

一寸付け加えさせていただきますと、私も20年前にパリに2年間いました。高2の息子は受験を考えて連れて行きませんでした。同時に私と仲が悪かったのです、当時反抗期で親父の都合で住所が変わるなんてもってのほかだと言って、ただし夏休みだけパリに来て見物してさっさと帰ってしまいました。ただその後彼は数年前パリ駐在になってフランス大好きになりました。娘の方は学校を1年遅らせて中学が終わった時にフランスに行きたい、ベルサイユに行きたいと、これはご存じのように『ベルサイユのバラ』という宝塚がありましたので大喜びで行きました。朝から晩まで仏語がやりたいと言うので寄宿舎のあるブローニュのカトリックの学校にいれました。そこでは日本人は私の娘一人でした。一言も分からないで入ったのです。どういう苦労をしたか詳しくは聞きませんが、日本の学校とは非常に違う体験をした訳です。ただし辛かったようです。そりはフランス人の中に朝から晩までいて金曜日に帰ってくると、家で日本語歌謡集のカセットを一人で静かに聴いている、つまり自分の *identite culturelle* が何処にあるか考えていたのだろう子供の中に。相当辛い目に合わせたと思いましたがその代わり帰って来る頃にはモリエールが読めるようになりました。ものすごい集中教育をさせられたと思います。わたくしの娘の子供、私の孫は8ヶ月でオランダへ行って2年いました。幼児と言うのは全く抵抗がないらしく、オランダ語と日本語とごちゃごちゃに混ぜてしゃべって帰って来ましたが1ヶ月ですっかりオランダ語を忘れました。後で「オランダ語の唄を歌って」と言うと、今6歳ですが、とても具合の悪そうな困った顔をして「知らない」と言うようになった。この辺が・・・言葉に問題に何かあるのではないのでしょうか。ただ娘の方は中学を卒業して行きましたから物の考え方の違いに非常にショックを受けた。ビジネス等でもフランス人と日本人にもの考え方の違いは、幼児期はあまりでないけれど小学校?中学校になるとずいぶん出て来るのではないだろうか。今お聞きになったような体験とは違う体験をなされた方はいらっしゃいませんか？

息子の体験したフランス

中村

私の子は今19歳です。小田島さんのお話と少し似ているけれど少し違う所を。私の息子は1978年にフランスで生まれ、3歳の時に父親と別れましたので私は日本へ連れて帰りました。すぐに日本の保育園に入れました。私は仕事がとても忙しく、時には単身赴任で母親に預けました。フランス語は1ヶ月もしない内にすぐに忘れました。そのまま日本の小学校へ上がりました。3年生までいました。それまで何かと私が仏語を教えようとしたけれども、一切これは無駄な徒勞に終わりました。つまり周りが完全に日本の中ですからまた、小田島さんの家と違って誰も仏語を話して居りませんから完全に日本語です。本人はフランス語のフの字を聴くのも嫌だという状態でした。

単身赴任について来てくれて

ところが3年生の夏に、私の仕事でどうしてもフランスへ行かなくてはならなくなりました。その時の息子に「一緒に行ってくれるか、またママだけ単身赴任で2年間も行くのか」と聞いたら「一緒にいてあげる」と言いました。やれやれと、一緒に行きましたが、やはり急に二人だけの生活になって、息子をいきなりフランスの学校に入れるというのはあまりにもショックが大きいのではないかと、地ならしに日本人学校へ入れました。ここは想像以上に完全に日本だった。パリの中にある別の世界で仏語に少しずつ慣らせるという目的から全く外れた別世界です。ここに長く置くのはせっかくフランスに連れてきた意味がないので、半年で現地の学校へ入れました。

話も出来ないのに登校拒否もなく

元々息子はフランスにあまり来たくなかったものですから、面接で一言も話さず、先生が困ってしまって、2年遅れで入れてくれることになりました。ところが一言も話さない子供も暖かく迎えてくれて毎日がとても楽しく一度も登校拒否を起こさず私が一度仕事で帰りが遅くてたった一人で留守番をしたのですが、その時も次の日学校へ行かないとは一言も言いませんでした。2年間の赴任が終わり日本へ帰ってきたとき私は悩みました。

帰国してからリセに入って

日本の学校へ戻るのが一番簡単、しかしその間に父親と非常に良いコミュニケーションが出来るようになったのです。ですから父親の強い要望と、息子もやはり「アメリカ人」とか色々小学校で言われこの先、もっと色々な差別を受けるのではないかと心配でリセF-Jの校長にお電話したら「とにかく一度連れていらっしやい」と言うことで連れて行きました。するとその日から「僕ここにいるよ」と。「自分と同じ人ばかりじゃないか、誰も心配ない」と言うのでそのままリセに入れました。それが私の日本に帰ってからの最大の決意でしたが一番正しい判断でした。息子は中学卒業までリセに居り高校からは一人でフランスへ出しました。父親の所へも行かずホームステイさせBACはMention tres bienを頂き現在はグランエコールのクラス・プレバトワールの勉強をするそうです。本人に聞くと、心を和ませるのは日本語、勉強をするのはフランス語だそうです。頭の中ではっきり別れている。もしも、お金が大変だからと日本の学校へ戻したら現在の彼はなかった。親の一瞬の判断は子供の将来を決めるものだと、私は今本当にあの時の判断と息子の努力に本当に感謝しています。

母国語ってなに？

フランス人男性 私と同じ経験の方もいらっしやるかと思いますが、母国語の問題があると思うのです。母親の言葉か、住んでいる国の言葉か、父親の言葉かその問題は難しい。母国語に関して難しいと思う点それはリセに子供を入れているのですが、子供達はいわば治外法権の中で固まっていると同時に不自然なところで生きていと感じている。生きている場所、それは日本だからです。自然な言葉、それはむしろ日本語であるべきです。TVも街で聞こえてくるのも日本語です。リセの外では常に日本語を聞いているのが子供にとって自然な事。簡単に言えば、私が心配しているのは、ある時点で子供達に無理やりある言語を教えなくてはいけないと言うこと、それは彼らが生きていく自然な環境と違う言葉である際に一種の矛盾が生まれるのではないかと言うことです。その矛盾とはあるしっかりとした構造を持った考え方を作らなければいけないと言う必然性に逆らうのではないだろうか。つまり根幹となる言葉が必要になった時それが母国語であるはずで、ところが、その母国語が自分の一番活発でいられる生きていく場所とはズレているのです。

私はまだ答えを見つけていません。子供たちが学校を終えるまで私はこの問題を考え続けるでしょう。この件について皆さんのご意見、特にもう学校を終えたお子さんをお持ちの方の中から

母国語はひとつなのでしょう

マレ

私の子供達もまだ道の最後にたどり付いてはいません。そうした母国語の問題には私も興味を持っていません。私の子供達の場合、二つの母国語を持つことも可能に思えたのです。彼らは日本語と仏語両方を同時に学び、二つの言葉にふれている時間は殆ど同じです。彼ら言葉は状況に応じて変わります。場所が変わると言葉も変わる。それは私たち夫婦が望んでいたことでした。確かに一種の一貫性を二つの言語世界の間に維持するには常に同じ言葉で話すのは同じ人間でなければいけないと思った。この考え方は本当に合理的だと思った。ジョージシュタイナーが『アフターザファーバベル』という本の中で彼自身の言語体験を話しています。彼は中央ヨーロッパのユダヤの家庭に生まれました。家の中には十二人程の人がいて様々な言葉を話していました。イビシュ語、英語『パベルの後に』という本です。そこでシュタイナーはフランス語で始めた文章が途中イタリア語になってドイツ語で終わるような状況もあったと言っています。けれどもシュタイナーは完璧に3ヶ国語を話し、仏、英、伊語で本を書いています。どれが自分にとって母国語として強いのか自分でも分からないと書いている。母国語の特徴は母国語が一つであるということではないだろうか。私の子供達の場合、両親の言葉の方が保母さん達の話す日本語よりも母国語だとは私は考えにくいと思います。

息子と娘の異なる母国語

オダジマ

私は子供が二人いますが、母国語はそれぞれ違っていると思います。息子にとっては日本語で娘にとってはフランス語です。夫はフランス語を話さないでパパとのコミュニケーションはいつも日本語で行われています。もしも私たち夫婦が相手の言葉を話していたら今とは違ったと思います。またもしも私が仏語を話し続け、夫が日本語を話し続けていたら今とは違ったと思います。私が日本語で夫に話しかけているので息子は私に仏語で話しかけられると喜びません。どうして仏語で息子に話さないのかとみんなにとっても批判されました。私にとっても辛い体験でしたが彼とコミュニケーションをとる為には日本語を話すことが唯一の手段だったのです。確かに彼は今フランス語でもとても上手く話しますが日本語の方が居心地がいいのです。我々両親にとってリセF-Jの問題は、子供達がリセ・フランコ・ジャポネ語というリセでしか通じない言語があるということです。日本語と仏語が同じ文章の中で恐ろしい形で混ざっているのです。彼らは彼ら独自の新しい言語を持っているのです。わたくしはあまり厳しい母親ではありませんがその点だけは厳しくしています。『仏語を話すか日本語を話すかどちらかにしてリセ語は話すな』というも厳しく躾けています。

日本語の敬語の難しさ

小林

私の孫は3歳でしたが、オランダ語と日本語をめちゃくちゃにしゃべっていました。その代わり、母親のせいだと思ったのですが、日本語が非常に荒っぽく敬語がゼロでした。私たち夫婦はこれはいけないと思ったので、「これ食べる」と言ったら食べない「これ召し上がれ」と言わなければ食べないと厳しくやったら今度は敬語にもものすごく興味を持った。敬語をつかうと言えば物を売る時ということでお店やさんごっこで盛んに客をやらされて「?ございます」とか言っていました。この敬語とか日本語の難しさが、

なかなか日本にいる外国人が日本の学校に入れない一つの原因ではないだろうか。逆に日本人がわりにフランスの学校に入れるのはフランス語の方が少なくとも入るとき楽なのではないか。敬語がない、代名詞が一つしかない。日本語にはわたし、わたくし、おれ、とあるが仏語は je しかない。楽なのではないか。

フランス的ゆえに異端児視されて

富永 私はフランスに9年間居りました。子供達が生まれて間もなく行き、9年間ずっとフランスの学校で育ち、完全なフランコフォンとして帰って来た。私は現地主義ですから、日本では当然のように公立の学校に入れ、6年が経ちました。今私が非常に困っていることがあります。子供の能力は素晴らしく、すぐ現地に溶け込んだ訳ですが、上の男の子が10歳で帰ってきた。言葉の問題ではなく、ものの考え方、文化の問題そのものですから、実は私は何度も学校から呼び出しをくったのです。今でもまだ説明しても分かってもらえない。実は子供達がそんなに長くフランスで教育を受けてきたと言うことは最初言ってなかったものですから先生達にしてみれば、なぜ、うちの子供達がそういう発想をするか、そういうリアクションをするのか全く理解出来ずに、問題児になってしまったのです。私はよくわかるのです彼らの言っていることが。結論は今かれらは日本語を完全に話します。仏語は6年経って忘れてしまっている可能性が強い。しかし、ものの発想法から考え方、身振りは完全にフランス人に近く、他の日本人の子とは全く違い依然として問題児なのです。ただ幸いに彼らはそう言うことを意識していません。そこがまたフランスの教育のいい所ではないだろうか。問題は言葉だけではない。

小林 オダジマさんのお子さんは非常にフランス的なものの考え方ですが、それは日本の学校へ行くと困ることが起こるのではないかと。

日本の教え方は「答えは一つ」

オダジマ 息子は日本の学校へ行ったとき集団で行動するのが下手でした。今から本を読むと言われても他の人が本を読んでいるから出来ないとか個人主義的な行動をとるので集団に溶け込むのが下手でした。日本の小学校からフランスの小学校へ行く方が逆の場合よりもとても簡単だと思います。日本の学校ではいくつか良い規則を教えてください。学んで良かったのは規則だと思いますが息子は日本の学校からリセへ移った時、本当に簡単に適応しました。何も問題はありませんでした。逆だととてもきつと思います。日本の先生は子供達が他の考え方をするという事が理解出来ないのです。普通日本の教育では、質問をすると記号化された一つの答えしか出ない事になっています。子供は別の考え方をし、別のアイデアを持っていることもあるが、そうすると日本の教育では問題とされてしまいます。一方リセではひとつの問題に答えは一つではなくて、問題が一つあればそこに自分で答えを創り出し、努力をたくさんしなくてはならない。オリジナリティというものが評価される。フランスの制度の中では子供達は独創的でいられる。日本の教育制度の中では子供達のオリジナリティを生む機会があまりないのではないのでしょうか。

マレ こうしたシステムの一問一答と言うのは納得がいきませんが何歳からでしょうか？

オダジマ 例えば試験の時のことを言っているのです。テストの時は一つの問題があって四肢一択と言うことがあります。私はこれを記号化した答えだと言っているのです。

マレ でも小学校では、5年生の場合ですが、そのような一問一答みたいなものはないようだ。

オダジマ 子供達は独創性を発揮できますか？

マレ はい。子供達に各々自分の意見を言わせたりする事もあります。先生と一緒に色々雑多な考え方から段々と話を成してきます。小学校まではそれほど違いがあるとは思わない。

その点でフランスと日本で機構の違いがあるとは思えない。多分中学からではないだろうか。どこかの時点でそれが変わる時があるだろう。

アメリカでも個性尊重は強い

池上 私の場合フランスでは子供たちはまだ小さかった。しかしアメリカから帰って来て、大学に入った時におなじような現象があったと思うのです。考えてみればアメリカのハイスクールではかなり個性を尊重しますし、debate でクラス内のディスカッションで、自分が違う意見を持っているとか、ロジカルということ尊重するのです。ところが日本に帰って来ると、出来るだけみんなとおなじようなレベルをそろえるということ、今までは尊重してきたのではないかと。現在、教育のお手伝いをしていることもありますが、それではまずいよということが出てきて、日本人のやりかたがアメリカやフランスと少し違っているのだとわかるようになった。私はいま日本式のやり方も欧米方式にだんだん近づいていると思っています。

表現力のある子が外国向き？

小林 私も同じ考えです。しかし、娘をフランスの学校に入れた時、あるいは一般的に日本の子供をフランスの学校か外国系の学校に入れるときには、その子の性格が非常に強いことが大事なことだと思います。なんとなれば、しゃべれない子供は（理解される余地があるけれど、）自分を表現できないと馬鹿だとみなされるからです。

私の娘は非常に気性が強く夕方ブローニュの森で隠れん坊をするとき、un, deux,trois と dix まで数えて隠れるのだが、それが分からないものだからいつも鬼になっていて怒ってしまい、今度はいち、に、さんでやってみんなを従わせた。そのくらいの子だとフランスは非常に楽しいみたい。しかし遠慮して静かにしている子にとっては非常につまらなそうです。私は全ての日本人の子がフランスの学校に楽しく入れるとは思わないしすべてのフランス人の子が日本の学校へ楽しく入れるとは思わない。どなたか、そんな経験をお持ちの方はいらっしゃいませんか。

中村 私の息子も自分が他の人とは違うのだから目立ってはいけないと考えていました。フランスの学校に行った時も中学を出るまでは、日本の教育があまりに浸透し過ぎていて、いつも父兄会では「彼は主張がない」と言われていました。高校に入って一人になったときに、自分で変わっていったと思います。

日本の学校は仲良し会的

桂 多少コンセプトは違いますが、本当は子供がここに来てしゃべるのが一番いいのですが、感謝していることが二つあります。その一つは個人主義と言うものがもんなに良かったのかと学んだこと。疎外感があったけれど人種差別で攻撃されたことはないとか、ありましたが、もうすこし平易な感想で言いますと喧嘩をしても当人以外の人は仲裁にはいらぬ。ずいぶん冷たいとおもったが、二人の問題だから、ということでそれがどう個人主義につながるかと言うことをこれから説明します。生徒と先生、生徒と学校の関係が日本のそれとは違う。例えば文化祭、体育祭、父兄会なんてものはない。修学旅行はないが見学会というものがよくあった。 反面クラブ活動がない。極端に言えば、生徒と生徒が向き合うようなことがないからいじめがあまりないのでは。そう言う意味では毎日が穏やかだったと娘は言っている。ノートが取れなくて、ある日「ノートを貸して」と言ったらすぐに貸してくれた。これはこっちが言わなければ

アクションをしてくれないと言うことで個人主義につながる。娘が言うには、貸してくれとか、助けてくれとか言う勇気がないと相手の方は助けてくれない。向こうは宿題が多いので次の日の為に必要なだろうがノートを貸してくれる。これを「ありがとう」という礼儀の部分がないと長続きしないと書いたのでいい勉強をしたなど、フランスの学校に感謝している。それに比べて日本の学校は仲良し会的な子供同士に私事が多いし、先生と向かい合うのでなく生徒同士の仲良し会的なものではないと上手いかわらないのでは。それがこうじていじめの問題にもつながるのでは。

第三外国語としての英語について

小林	もうひとつの問題は日本人がフランスに行っても、フランス人が日本に来ていまいや、世界語として認めざるをえない英語の問題が有ると思います。つまり 3e langue として、この問題をフランス人の意見をお聞きしたい。
フランス人男性	私のこどもは3歳半。わたくしはフランス人で日本語はあまり話せないが、日本人の妻は素晴らしい仏語を話す。私たちの会話の80%90%は仏語、妻は子供には日本語で話しかけ私は仏語で話しかけている。子供は4年前から日本社会で育っていますが、家の中はむしろフランス的。私の願いは子供が仏、日、英の3ヶ国語を話すこと。条件はそろっている。子供はバカではないし、家庭は仏語の環境だし、彼が育つ社会は日本であるが、学校は英語を学べる所に行かせなければならぬと考えている。私の目的は欲張りなのかも知れないが何かとアドバイスがあれば。
小林	お子さんの言葉は3カ国語混ざっていないか？
先の方の奥さん	すでに3カ国語が混ざっています。2年前から英語の学校へ行きお手伝いさんも英語なので1番出来るのは英語だが、私と日本語を話すときもとても上手に話すフランス語を話す時は時々混ざってしまって私が仏語を話すと思議そうに何となく具合悪そうにする。だから3カ国語同時進行というのは全く問題ないと思うのですが。先ほどのお話にあった考えの軸となる言葉というものがすごく問題である。宗教を軸としてもいいのかも知れない。今とても難しい。
フランス人男性	付け加えると、3歳、4歳で子供はどんば大学に行くかは分からない。18歳で彼がアメリカに留学し、3~4年過ごすとする。3歳の時に3カ国語をやった事は正しいこととなる。ところがいつかフランスに戻るようになったら、それまでとてもアングロ・サクソンのな粋組みの中で暮らしてきた事がかえって障害となることがある。
尾藤	私は人類には二つの言葉しかないと思う。つまり名詞に係る形容詞が前に来る言語と、後に来る言語。日、仏、英の場合、日・英の形容詞が前に来る語で仏が後に来る言語。私の考え及びこれまで数十年間に渡る日本人及び外国人の観察によれば、形容詞が前に来る言語を母国語とする人は形容詞が後に来る言語を学ぶことで認識能力が広がる気がする。逆も又然り。ドイツ人で大学でラテン語をやった人とそうでない人は違うように思う。仏語と英語の場合はポキャブラリーの問題は殆どなく、あるのは発音の違いだけだ。

共通語はブローケンイングリッシュ？

池上	先日国際会議へ言ったとき8カ国語くらいの人間が集まった。話し合いで共通語はやはり英語になった。終わってから飲みながら話したら今度やる時はイギリス人を抜きにしようということになった。なぜならイギリス人の英語だけがわかりにくい、我々英語を外国語として学んだ者からすると早口でわかり易さと言うことを考えずに口の中でモゴモゴやるので非常にわかりにくい。だからイギリス人は抜きにしよう。
----	--

さらに、我々の共通語は English ではなく Bad English で Broken English だという取り決めをした。商社では 200 ヶ国くらいに社員を送り、現地のひとで我々の社員として働いている人が 4,000 人くらい、そしてその人達との会議もどうしようもない英語でやる、アジアであっても共通語は中国語ではなく英語でやる。母国語か否かという高度な問題としてよりも、道具としての英語の必要性を感じている。ただ英語もグローバル・スタンダード、金融方式からなからアメリカンスタンダードがグローバル・スタンダードと呼ばれることには非常に抵抗を覚えるが、何とかして自分の国のアイデンティティーを残しながらの道具としての英語という時代になってきたということ。

道具としての「英語」と割り切って

フランス人男性 確か多くの言語を話せるのはいいことであるがだからといって早く英語の方へと決めてしまう必要はないのでは。確かに英語は今必要不可欠なコミュニケーションの道具となっている。このままこの状況は続くだろう。ただ、今使われている英語は人工的な英語である。つまり、英語を母国語としない人のコミュニケーションのための英語である。そのために子供の頃から学ぶ必要はない。子供にはもっと面白い言葉を覚えることができるしもっと複雑な文法があったり面白い別の言葉を習った方がいいのでは。

父母の言葉が先ではないか

オダジマ クロード・アジェージュと言う有名な言語学者曰く「幼い頃から出来るようになった子供はそこで留まってしまって他の外国語を発見しなくなる」私たちは在日仏人の家族で、日本語と仏語という二つの言葉を学ぶチャンスをお子達に与える事が出来る。難しい言葉です。子供達はいつかは英語を学ぶだろう。だから子供の時は日本語と仏語という父と母の言葉に集中した方がいいと思う。それから後で英語。勿論子供の反応による。私の子供のように仏語を学びたくないと言う子もいるし、あなたのようにお子さんが 3 ヶ国語を学ぶ事をうけいれているのなら結構だし、ただまず考えるべきは子供各々がケースバイケースで見られるべきとこと言うこと。私の娘は日、英、仏でも平気だったが息子の方は鋭い反応を起こした。だから一般化した話をすべきではない。子供が必ずしも 2 カ国語を話す訳ではない。英語はもっと大きくなってから学ぶべきでは。子供の頃から英語を学ばせることが有益とは思わない。ビジネス英語は特殊でシェークスピアのそれとは違う。

小林 私は英字新聞は読めるが、英語を発音すると英国人から「あなたの英語は仏人の全ての欠点が入っている」と言われた。なお「そうか」と言う「いや直さない方がいい、仏語が出来ることがよくわかる」と尊敬された。(仏語と英語は綴りも似ていて近いものだが) 日本語は読めているという事でお子さんの教育に難しい所もあるでは？

マレ 同じだと思う。フランス人の子供達も間違いをしながら綴りを覚える時期があるので。ある種特別な困難があるとは思わないが、息子は日本語を読めるが漢字が書けない。これは日本語特有の難しさではないだろうか。子供の頃から何度も練習して学んでいないと、読めても書けないのでは。最近はコンピュータが発達して簡単にはなったが。これは学校の選択の問題。息子は通信教育で仏語をやっているし仏語は読めるけどやはり綴りは仏語も難しい。フランス人の両親を持っている人でも起こり得る。この問題は 2 カ国語だろうが母国語が一つだろうが同じ。つまり学校の問題だ。

日本では女の子の方がバイリンガル志向？

フランス人女性	私たちは子供達を日本語と英語のバイリンガルの学校へ入れた。この学校には日本人もいるが、女の子が多く、男の子はいてもたいてい混血の子である。女の子はバイリンガルの学校にいるのに男の子は普通の学校に入れるのか理由を聞いてみたがあまりはっきりとした答えは返ってこなかった。
池上	それとなく全く反対の問題が海外の日本人学校で起きている。日本人学校は日本語で教え、第2外国語でその国の言葉を教えることになっているが、そこには男の子ばかりいる。女の子はインターナショナルスクールや現地の学校へ行っている。私は教育委員としては、もう少し男の子も非常にトラディショナルな教育にとらわれずに同じようにチャレンジングに教育をうけたらと思う。どうも男の方が型にはめて育てるのが日本の現状で変えるべきだと思う。

日本企業が英語文化中心過ぎるのでは

並木	私は海外から帰ってきた子供や家族のカウンセラーをしています。このごろ、大学くらいの年齢でフランスから帰ってくる子供たちを見て非常に残念に思うのは、英語の問題もあるかと思うが、フランスで現地の学校に入るよりもインターナショナルスクールかアメリカンスクールに入って英語ベースで学んでくる子が圧倒的に多い。 日本で外国語と言えば英語、インターネットも社会も英語なので大学の受け入れ言語はたいてい英語である。これはドイツやスペインでも同じで殆どインターナショナルスクール、アメリカンスクール。(日本の) 高等学校くらいで折角文化を理解してきても殆ど仏語が話せない。学校で2H位やっても、社会の言語が仏語でもやはり学習言語が深く入りますから。そうかと言っても英語圏の英語よりも吸収が浅い。日本が確かに英語文化になりつつあるのだけれど、もっとドイツやフランスの学校から色々な文化を吸収した子を受け入れられる土壌、最終的には企業だと思うが、色々な国、いろいろな学校から帰ってきた子を大学も企業も受け入れるようになればと願っている。
小林	日本語での教育の難しさについて、私は日本で教育を受けて大学からフランスに行き10数年間いたが、やはり日本語はあいまいな部分が多いので学問をするには英語や仏語の方が簡単だと思う。率直でその曖昧さを削いだような形で学べる。同じ労力を別のことを吸収するのに使えるのではないだろうか。だから、うちの子供のように3ヶ国で勉強できるチャンスがある場合にはなるべく日本語での勉強は避けて上げたいと思う。ただ読み書きは何とか出来るようになって欲しい。フランスの中学か高校に通っていた方は？

子供にとって貴重なフランス体験

山田	4回に渡って、1回4~5年ずつ、日本人学校には入れずにやったので子供は飛び級をしたり、落とされたり色々苦労をした。結論を言えば、今子供達はフランスに延べ10年ほどいた事を大変喜んでいる。また各々の反応がその時その時で、息子は中学の時になぜ今頃フランスの歴史をやらなければいけないかと拒否すると抵抗したり、女の子は比較的積極的ではなかったがいい成績は取った。今現在は親が勝手に連れていった事ではあるが文句は全くないと言っている。
小林	時間がなくなってきましたが、どなたかご自身で体験された方は？

大変だったカルチャーショック

大田垣

私は高校をフランスで過ごしました。大変昔のことで大変なショックでした。親の都合で連れて行かれ、それまでフランスに興味はないし語も勉強したこともないし。フランスに対する良いイメージは昔の方が強かったので、なんて素晴らしい所なのだろう、何て綺麗なのだろう、まわりが外人だわ！と非常にショックだった。今は非常に若い方達が自由に外国人と話をしていますが、当時の日本人は外国人に対して一種引いてしまうところがすごくあったと思うし、突然きれいなフランス人女子学生の中に入って全然口もきけなかったですね。だんだん慣れてきて行って良かったと思いました。

3年間いたのですが、やっと慣れた頃に帰ったのですが、やはり高1くらいの年齢で行くのは自意識が確立しない子供のうちに行くのとはまるっきり違う。はじめの頃帰りたくて毎日泣いていました。日本に帰った時には大学に入る時だったので、いわゆる画一的な教育の場ではなかったのでそれほどカルチャーショックはありませんでした。

小林

私の娘はフランスで1年間で習慣を身につけて帰ってきて、授業で先生が間違った時今までは、「違いますよ」と言っていたのに、「違うよ！」と言うようになったので非常に生意気だともいじめられました。

私の提案：2~3年フランスで小学校・中学校を過ごしたことがある日本人の大学生5人をパネリストにして、みんなで質問してみるとフランス人のものの考え方、何処が違っているかがわかるのでは。私は25歳で初めてフランスへ行ったので、本当にフランスが分かっているかと言うと、私の娘の方が1年間とはいえ深く入ったのではないかと思います。

用意していたキーワードはもっとあったのですが、十分に消化しきれなかった不手際をお許し頂きたい。

子供たちの方が理解深いのかも

子供達が親について行って海外生活をした、異文化体験をしたと言うことで無形の文化を手に入れたという気がする。子供の方が深く理解したのかもしれない。将来、日本とフランスの間で色々ビジネスをやる際に人間が親しくなるためには、やはり相手のことを知らなくてはいけない。英語という道具でやってもいいが、それは道具にすぎず、道具の他にもう一つ人間として親しくなるのはやはり大切だと思う。そういう期待をこめて子供を見守りたい。次の世代に豊かな視野を持たせるには日本人にとってフランスは非常にいい国で、フランスにも日本が興味深い国であってほしいと願っています。

浦田

残念ですが時間の関係でこの辺で打ち切らなければなりません。

準備の段階で出ていたキーワードはもっとあったのですが、すべての問題点に触れることはできませんでしたが、本テーマに対する関心の高さはよく理解できましたので、改めて、討論できる場を作りたいなど考えているところです。今後ともよろしくご支援ください。

お互いに話足りなかった部分を、時間の許す限りロビーでお続け下されば幸いです。

皆さん有り難うございました。